

静岡英和学院大学 英和ユニバース (学報)

EIWA UNIVERSE



オーストラリア留学から帰国しました。

2012年秋にオーストラリア・ブリスベンにあるグリフィス大学と留学提携の協定を結び、第一期生6名(人間社会学科3名、コミュニティ福祉学科3名)を併設語学学校(Griffith University Griffith English Language Institute, 略称GELI)へ2013年4月に派遣しました。参加学生の皆さんは約3か月の研修を終えて、7月に帰国し、学内で学生・教職員の参加のもと帰国報告会を行いました。

これまで本学では1994年に第1回の留学プログラム参加学生をバンクーバー郊外にあるカナダ・バンクーバー神学院(VST=Vancouver School of Theology)に派遣して以来、毎年十数名の学生が留学していました。2009年からは、VSTに代わり、トロント郊外にあるカナダ・ウォータールー大学(The University of Waterloo)のセント・ポールズ・ユニバーシティ・カレッジ(SPUC=St. Paul's University College)への留学生派遣が始まりました。このSPUCへの留学制度は存続していますが、最少開講人数が10名という受入れ大学側の条件があることから、毎年の開講が確実でないため、2013年度より新しくオーストラリア・グリフィス大学への留学制度が始まりました。

グリフィス大学への留学プログラムは、4月に出発し、7月後半に帰国するスケジュールで、はじめに英語習熟度別の語学集中講座を10週間受講し、その後、現地企業・組織でインターンシップを2週間経験します。帰国までの期間には現地の自然・文化に対する理解を深めるためのオーストラリア・フィールド・スタディーズという研修が行われます。合計3か月間の実践的な学

びを重視したプログラム内容が特徴となっています。グリフィス大学併設語学学校(GELI)では本学からの学生だけではなく、世界中から集まった学生と教室を共にします。若いうちに「国際的な視野」を身につける上で理想的な環境といえます。本留学プログラムの成果の一部は、本学で学習し修得した単位として認定されます。また、滞在先は現地オーストラリアのホストファミリー宅となるため、日常生活の時間にも英語を使う環境となります。

人間社会学部には、この留学制度とは別に、学科毎で短期の海外研修旅行(デンマーク、スウェーデン、カナダなど)があります。また、短期大学部は現代コミュニケーション学科で短期の海外研修旅行が別途行われます。本学で提供される海外での学習経験の機会を活用し、グローバルな視野を持てるよう成長していきましょう。(国際交流委員会 クレiner)



<インターンシップ研修の様子(ホテル)>

(注) 食物学科については取得免許の関係上、留学と本学最低年限での卒業を両立することはできません。質問がある場合は学務課まで問い合わせてください。

.....

ハイライト:

- ボランティアセンター ECO活動 (3ページ)
- あちよぼ・はびねす活躍 (4ページ)
- 留学生センター 課外活動報告 (8ページ)

.....

目次:

学長・副学長あいさつ	2
宗教委員会より	3
ボランティアセンターより	3
学科News(大学)	4
学科News(短大)	5
キャリア支援課より	6
学務課より	7

明かるく活気ある大学に

学長 武藤 元昭



今年も卒業の時期を迎えました。また、入学試験も終わり、新入生の数も固まりました。残念ながら、新入生は定員を下回ってしまいましたが、大学はこれらの選ばれた人達を大いに歓迎したいと思います。

大学の多様化、大衆化ということが言われて久しく、本学もまたその渦中にあります。しかし、大学の本質は基本的には変わりません。大学とは教員、学生が一体となって真理を追究する場です。ただ、その方法は多少変わってきました。学生諸君の入学の目的に変化が見られるからです。大学で良い就職先を見つけようというのが第一義となっているように思われます。大学の価値を就職率で判断しようという傾向があります。無論、就職は大切です。しかし、それが全てとなつては、大学に暮らす者としては淋し過ぎます。

人生の中で貴重な2年間、4年間を過ごすのが大学です。時間も使いようによっては豊富にあります。ですから、大学は学生諸君にこの時間を有効に使ってもらいたいと考えるのです。

後でふり返ってみて、充実した良い生活だったと思ってもらいたいです。

常々、大学は単に通う所ではなく充実した時間を過ごす所だ、と私は言っております。幸いにこの大学にはその生活をする可能性が沢山あります。落ち着いた環境、思索に相応しい場、友人との有意義な交流の機会、教員との緊密な関係、といったものが、他の大学以上にあると私は思っています。私は今まで沢山の大学を経験してきましたが、上記の事柄において本学は決してひけを取りません。問題は学生諸君自身がそれに気付いてくれるか否かです。明かるく活気ある大学を自らの手で作り上げて行きましょう。

インターンシップとアルバイト

副学長 市川 充俊



就職活動の一つにインターンシップ制度がある。会社で実際に働くことによって仕事のイメージを明確にし、自分たちの適性や将来の進路を決め、仕事への適応力を身につける制度である。夏休み、春休みの一週間ほど期間限定で襟を正して企業研修をする意義は大きい。

一方、多くの学生がアルバイトをしている。

私のゼミでは、8割の学生がアルバイトをしている。コンビニのレジ係から家庭教師まで、アルバイト先は様々である。

彼らがアルバイト先を決める動機は明快である。時給である。

時給が決まっているのでアルバイト先ではいくら頑張っても仕方がない。だから費やす労力は最低限でいいと考えてアルバイトをしている学生も少なくない。

しかし、この考え方は実に「もったいない」。せっかくの学びと成長の機会をみすみす逃していることになる。アルバイト先では客との対応や接客技術、商品知識から会社の仕組み、流通事情、さらには上司や先輩、同僚との接し方などなど多方面にわたる生きた社会の中で学ばせてもらいながら、しかもアルバイト代というおカネをもらっているのである。

アルバイトだから手を抜いて、インターンシップだから襟を正してと区別せず、日々のアルバイトをプレ・インターンシップと考えれば、アルバイトをする毎日がインターンシップであり、就活である。「襟を正す」のはアルバイトもインターンシップも同じである。

宗教センター ～EIWAのクリスマス！～

英和のキリスト教行事の中の最大のものは何と言ってもクリスマス行事！今年は去年以上に学生がこの行事に関わってくれた。まず、第5回となるクリスマスカードコンテスト。応募は165件あり、その中で最優秀には人間社会学科1年の徳田実保さんのカードが選ばれた。来年もぜひ、たくさんのお応募をして欲しい。



さてクリスマス行事の開幕は第6回ワンコイン・クリスマス・コンサートであった。12月4日(水)聖歌隊とベル部の演奏、5日(木)ダンスサークルによるエネルギッシュなダンス、6日(金)吹奏楽団、9日(月)食物学科2年の田中知信さんによるマジックショーとコミュニティ福祉学科1年望月大貴さんの歌(ギター)、10日(火)有志2組による歌と楽器の演奏、そしてコミュニティ福祉学科2年生有志によるダンスパフォーマンスが新館1階ラウンジで行われた。演奏してくれた学生、聞きに来てくれた学生、そしてコンサートを支えてくれたスタッフの学生が一つになってコンサートが出来たことに感謝。尚、募金は日本赤十字社にフィリピンの台風へのお見舞いとして届けた。

さて、12月になって学内はイルミネーションやクリスマスツリー、アドベントカレンダーなどで飾り付け、クリスマスを待つ雰囲気が整えられ、クライマックスは18日(水)に行われた大学クリスマス礼拝である。照明をおとした新館5階講堂内において聖歌隊の賛美、そしてその間、点火係4人の学生によりキャンドルに火が点された。学生による聖書朗読

の後、伊勢田奈緒牧師により、『もしかしたら！』と題するメッセージ — クリスマスのおとずれは、神様が働き、わたしたちがその働きを信じ受け入れるところにある。天使ガブリエルが結婚前のマリアのところに現れて、『あなたは男の子を生む』と告げられた時、マリアははじめは戸惑ったが、しかし、『もしかしたら！』と希望をもってこのお告げを受け入れた。このように、クリスマスは・・・一人一人を愛して下さる神の子、救い主、イエス様のお誕生を心から祝い、『もしかしたら！』と・・・自分への神様からの呼びかけをしっかり受け止める日である — があった。その後、前年に引き続き、ISED劇団(コミュニティ福祉学科2年小澤真さん他6名出演、人間社会学科3年クグンフさん音響・効果担当)による「きよこの夜物語」(伊勢田奈緒脚本)が上演された。劇終了後、クリスマス献金が献げられ出席者全員で『ひいらぎ飾ろう！』を歌い、祝祷をもって礼拝を終えた。

午後6時からは例年通り、静かな夕べにキャンドルサービスとクリスマス会が行われた。キャンドルの灯りの下、神聖な雰囲気の礼拝が行われた後、クリスマス会では箏曲部による「ジングルベル」、ベル部による「きよこの夜」が演奏され、クリスマスの盛りだくさんのごちそうで、集まった学生と武藤学長を含む教職員が共に楽しい一時を過ごすことができた。今年も多くの学生の協力により、温かで和やかな英和のクリスマス行事を行うことができた。感謝。(宗教 伊勢田)



ボランティアセンター ～活動報告～

ボランティアセンターでは、地域貢献と学生の環境美化活動への関心を高めるための活動、『英和ECO大作戦』を10月19日(土)に開催しました。この企画は、自治会の皆様と一緒に地域活動を行う機会として2009年度から始め、残念ながら雨で中止となった2011年を除き、今年で4回目となります。



実施場所は大学近くの桜公園と周辺道路。枯れ葉や枯れ枝・延びた蔓をきれいに片付ける作業が中心となります。大学近くの池田山自治会の方々がお花見や夕涼みなど四季折々の集いに使われている公園ということで、綺麗にさせて頂きました。13時からのスタートでしたが、12時頃からパラパラと雨が降り出し、実施するか迷いましたが、早く初めて、雨が強くなったら切り上げようとのことで実施をしました。

最初はパラパラの雨が、少しずつ雨が強くなりましたが、学生

は雨に濡れながらも、懸命に作業をしてくれました。定時になり自治会の皆様も雨の中、駆けつけてくださり、学生12名、教職員5名、そして自治会からは6名の皆様にご参加いただき、総勢23名での作業となりました。

15時頃に終わる予定でしたが、雨が強くなってきた為に早めに切り上げました。用意したゴミ袋は、作業で満杯になり、枯れ葉の積もっていた歩道も、作業後にはスッキリ！皆様のご協力のおかげで、きれいになりました。



この活動を通して、自治会の方々と話す機会が与えられ、良きコミュニケーションの場となり、地域貢献に繋がった事だと思います。来年こそはお天気に恵まれて行えたらいいですね。(ボラセン 橋本)

人間社会学科News ～今年も卒業研究発表会を開催～

最も大学らしい授業の1つとして「卒業研究」が挙げられるでしょう。この卒業研究に関連して、人間社会学科の心理コースでは、他のコースにはない、「卒業研究発表会」というイベントを毎年開催しています。

今年の発表会は2013年12月17日(火)、本学新館1階ラウンジにて行われました。発表会は2006年から始まり、2008年までは静岡グランシップの一室を借りて、本学新館が使えるようになった2009年からは、現在の会場で行われています。今年で8回目を迎えますが、心理学ゼミ生として本格的に活動している4年生と、来年度に活躍予定の3年生が、それぞれが主役となり、協力し合いながら、発表会を盛り上げています。

発表者は、一定の大きさのパネルにポスターとしての発表資料を掲示し、ポスターと口頭説明により、自分がどのような発表をしたかを聴講者に伝えます。3年生は、発表会の会場準備をするのと同時に、発表の聴講者として、複数人でグループを作り、4年生全員の発表を回っていくこととなります。発表者である4年



生からすると、1グループにたいして5分の説明・質疑応答を行い、それが6～8グループ、自分の所に発表を聞きに来ることになります。発表を6～8回行いますが、最初のうちは慣れていなかった発表が、繰り返すうちに、大分スムーズになっていきます。発表会を終えた学生の多くが「大変だったが、充実した発表ができた気がします」と達成感を味わっていました。



発表会最後には、発表優秀者に対する表彰も行われるので、発表者も気合が入ります。心理コースでは、この発表会を、静岡英和学院大学の新しい伝統とし今後も盛り上げていくつもりです。(人社会科 林)



コミュニティ福祉学科News ～地域交流活動～

*子育て親子広場『あちよぼ』

今年で『あちよぼ』は3年目を迎えました。毎回大盛況で、本学学生による地域の子育て親子との交流も厚みを増してきました。

今年度、『あちよぼ』での学生の活躍を聞きつけた静岡県こども未来局から、8月27日「“ふじのくに”子ども子育て応援県民会議」の全面サポートと県若者代表として子育てで宣言して欲しいと依頼を受けました。



当日、知事や80団体の長の方たちにも学生の活躍を大いに褒めていただきました。その後もこども未来局から依頼を受け、11月、静岡県文化財団グランシップでの「ふじさんっこ応援フェスタ」にて保育技術を発表しました。12月、県立美術館から、「美術館でクリスマス親子で遊ぼう！ログダン館」での親子の制作指導担当を依頼されるなど、学内での実践だけに留まらず地域に出向いて『あちよぼ』を展開しています。(コ福祉科 永田)

*はびねす☆EIWAカレッジ

2011年度からスタートした『はびねす☆EIWAカレッジ』も3年目を迎えました。今年度は「自分のパワーを再発見！」を共通テーマに掲げ、地域で暮らす障害のある方が自信を持って人生を生きるためのヒントとなる4つの講座を実施しました。

11月30日に行われた最終回の講座では、2011年度卒業生の法月飛鳥さんを講師に迎え、働く意義と仕事を通じた自己実現について学びました。彼女は、学生時代はスタッフとして「はびねす☆」の立ち上げに活躍した卒業生であり、現在は障害者支援の仕事に就いています。講座では、ご自身の経験を活かして、楽しくそして働く意欲の湧いてくる講義を展開してくださいました。

講座を企画・運営する学生スタッフにとっても、卒業生と共に取り組んだ講座は、自分自身の成長の可能性と到達課題を考えるととても良い機会となりました。(コ福祉科 狩野)



現代コミュニケーション学科News

2013年度後期、現代コミュニケーション学科での産学連携事業を信用金庫との取り組みを中心にご報告します。

焼津信用金庫様との産学連携の取組みの内容です。本学は2011年から中部四信金ビジネスフェアに学生を派遣しております。10月16日、公共交通機関のダイヤの乱れにも関わらず、学生30名はツインメッセに集合し、各企業のアシスタントとして活躍しました。講義科目「就業力基礎」(受講生45名)では、同金庫の幹旋で11月28日に渡辺茂紀氏(同顧客相談部融資サポート課課長代理)、12月12日に大石智之氏(トマル水産代表取締役)が講師として、焼津・藤枝地区の地域産業や企業紹介の講義を行いました。



もう一つ、信用金庫業界の全国団体である全国信用金庫協会とは、静岡県内の有力信用金庫を招へいし、短期大学部学生を対象として信用金庫業界セミナーの開催を

行いました。本年度から非常勤講師を務めている西川輝明氏(全国信用金庫協会)のご尽力にあります。10月24日、講義科目「就業力基礎」で開催しました。信用金庫業界セミナーは東海地区で愛知大学に次いで開催です。参加信用金庫は、浜松信用金庫(浜松市)、しずおか信用金庫(静岡市)、城北信用金庫(東京都)です。各金庫からは、全国転勤がなく、産休制度が充実していて、女性が働きやすい企業と説明がありました。



以上のような事業の成果は現代コミュニケーション学科の就職内定率が向上していることにあります。本講義の開催にご尽力を頂いた学内の関係者には、紙面を借りて厚く御礼を申し上げたいと思います。(現コミ学科 児玉)

食物学科News ～最近の出来事～

* インターンシップ

本年度も1年生26名が9月のはじめに食品関連企業やホテルなど11の企業で研修を行いました。3日間という短い期間ですが、貴重な就業体験をすることが出来ました。また、11月にはキャリアデザイン演習の時間にインターンシップ報告会を開催し、研修内容や成果について発表をしました。



* オープンキャンパス、サマーキャンパス報告

例年通り、通常のオープンキャンパスに加え、7月28日、8月25日には、サマーキャンパス(1日体験入学)が行われました。短期大学部では、学科紹介、入試説明、学生トークなどを行いました。

食物学科では、模擬授業として、7月には、「タンパク質の不思議?」「オリジナルピザを作ろう!」「英和の厨房へようこそ!」をテーマにした授業を、8月には、「放射能とは? 食品の安全性について」「世界にひとつだけ!おいしいパン作り」「あなたもおコメ博士! 赤米・黒米・昔のお米を味わおう」をテーマにした授業を行いました。

* 秋の工場見学

毎年恒例の食物学科工場見学を9月12日、13日に行いました。本年度は大塚製菓袋井工場と、焼津水産加工センターを見学

し、水産加工センターでは、食育活動の体験として、「鰹節削り体験」を行いました。

* 栄養士実力認定試験、フードスペシャリスト認定試験など

全国栄養士養成施設協会主催の栄養士実力認定試験が12月8日に行われました。栄養士の資格を取得予定のほとんどの食物学科2年生が受験しました。また、12月15日には、フードスペシャリスト認定試験が行われました。厳しいスケジュールでしたが、学生たちは熱心に勉強して試験に臨みました。

* 第20回静岡県私立短期大学「体育大会」

静岡県の私立短期大学協会による体育大会が12月8日(日)に東海大学短期大学部他で行われました。本学は、フットサル、バスケットボール、テニスに学生がエントリーしました。食物学科からは、バスケットボールとテニスに参加しましたが、バスケットボールは3位、テニスは2位入賞とな



りました。栄養士実力認定試験と重なったため、主に1年生の参加となりましたが、バスケットボールでは、栄養士実力認定試験を終えた2年生も途中から参加して白熱した試合が展開されました。(食物学科 堀江)



キャリア支援課

平成27年度（平成26年3月時点の大学2年生及び短大1年生）の卒業生から就職活動の時期が変更になります。現在は、企業の広報活動の開始時期が大学3年生及び短大1年生の12月、採用選考の開始時期が大学4年生及び短大2年生の4月になっていますが、変更後は広報活動の開始時期が大学3年生及び短大1年生の3月、採用選考の開始時期が大学4年生及び短大2年生の8月になります。

		現在 2015年卒業生まで 12月1日 広報解禁 (会社説明会など)	変更後 2016年卒業生以降 3月1日 広報解禁 (会社説明会など)
大学3年生	12月		
	1月		
	2月		
	3月		
大学4年生	4月	4月1日 選考解禁 (面接など) 内定	8月1日 選考解禁 (面接など) 内定
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		
	3月		

<日経ビジネスオンラインより>

就職活動の期間が短縮されることにより学生に様々な影響が出てきます。当然、多くの企業を受験することが出来なくなり、その結果、自分の希望する業種や職種への就職が難しくなります。そのことに対し、今まで以上に学生たちが就職活動に取り組む姿勢や時期についての支援を進め、学生にも理解してもらわなければなりません。

大学3年生を対象としたキャリア支援講座を、9月のオリエンテーションを初回として自分を知ること、企業を知ること、服装や身だしなみ及び履歴書の書き方などの準備編を4回、常識とビジネスマナー、企業説明会の活用、筆記試験の対策及び面接の対策の実践編を4回行い、それ以外の講座を含め11回実施しました。

短大1年生を対象としたキャリア



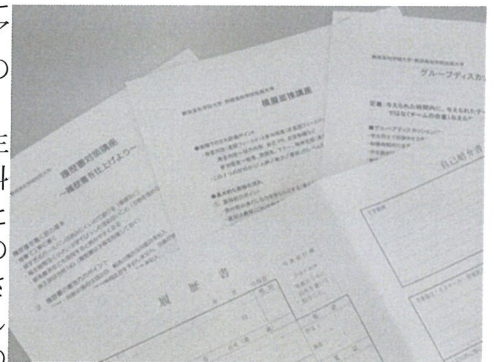
支援講座も、大学と同じように9月のオリエンテーションを初回として準備編を4回、実践編を3回行い、計7回実施しました。

また、大学3年生及び短大1年生の個別の対応として各10名の履歴書・エントリーシート講座及び模擬面接・グループディスカッション講座をそれぞれ3回実施しました。



なお、大学4年生及び短大2年生に対しても履歴書・エントリーシート講座及び模擬面接。グループディスカッション講座を10月、11月にそれぞれ実施しました。

今回の支援講座は準備編も実践編もそれぞれを一つのセットとして開催しました。講座と講座のつながりを重視し段階を踏むようにしました。併せて一つひとつの講座終了ごとに次回の予約をさせ、欠席した学生は前回の資料を受け取るとともに次回の講座の予約させることにしました。このように今まで以上に学生の理解を深めるようにシステムを変えました。その結果、昨年度より参加する学生が増加しました。



キャリア支援課としては就職委員会の先生をはじめ、各学科の先生の協力を得て、大学3年生及び短大1年生に対し、今後も就職活動の期間を有効に使うための対策を今まで以上に実施することになっています。（キャリア支援課 小杉）

留学生センター

*大谷崩れ植樹活動に参加

今年は伊豆大島で大きな災害があったこともあり、10月27日(日)に留学生たちは安倍川最奥の大谷崩れで開催された植樹活動に積極的に参加しました。山崩れを防ぐための植樹の大切さを実感しながら環境保護に力を尽くしました。また、地元の方々に温かく見守られながら餅作り体験をし、良い思い出になりました。



*ACC国際交流学園の留学生と交流

12月5日(木)、ACC国際交流学園(富士宮市)の留学生が来校し、センターでは本学の日本人学生と留学生の学生生活の様子を知ってもらうため、学園の留学生との交流会を開催しました。



交流会では在校生のメンバーの自己紹介や、日本人学生と

留学生に学生生活などについて紹介してもらった後、各グループで交流が行われました。本学の学生たちは、「おもてなし」の心を忘れずに、初めて会う留学生たちに率先して声を掛けたり、話しやすい雰囲気作りをするなど、様々な工夫を凝らしていました。交流が盛り上がったところで終了になってしまったことが残念でしたが、この会を通して少しでも本学の良さを感じていただけたら嬉しいです。

*留学生ビザ相談会開催

留学生は就職などに伴う在留資格の変更について関心が高く、手続きについての不安も大きいと、12月10日(火)、静岡県行政書士会の行政書士2名に来校していただき、留学生ビザ相談会を開催しました。

相談会には日本での就職を希望する大学3、4年生の留学生の他、1年生や卒業生も来場するなど多数の参加者が集まりました。相談会では就職時のビザ切り替え方法についての説明が行われた後、個別相談が行われました。ビザのことで悩んでいる留学生たちに専門家から様々なアドバイスをいただきました。(留セン鈴木)



総務課 ～2014年度授業料等学納金の納付書発送および納入期日について～

	前 期 ※1	後 期 ※1
納付書発送時期	2014年4月上旬	2014年9月上旬
納入期限 ※2	2014年4月25日(金)	2014年10月2日(木)



※1 授業料等学納金は、前期と後期の2期に分けて徴収します。

但し、新入生(1年生・3年次編入生)の前期分は、入学手続き時に徴収済みです。

※2 家庭の事情等により、期限内に授業料等学納金の納入が困難な場合は、学務課(Tel:264-8873)に相談してください。

大学後援会 ～「わくわく名曲コンサート」を開催しました～

2014年2月11日(火・祝)に新館5F講堂において、恒例の大学後援会主催によるコンサートを開催しました。

作曲家、ピアニスト、司会者などでマルチな活躍をされている青島広志さんに司会・指揮をしていただき、テノール歌手の小野勉さんと静岡交響楽団の演奏で「わくわく名曲コンサート」と銘打ったところ、500名以上の方が来場されました。

当日は青島広志さんの軽妙なトークと巧みな指揮に加え、小野勉さんの力強い歌声と静岡交響楽団の美しい音色が

重なり、会場は笑いと感嘆、拍手に包まれていました。

当日ご協力いただいた後援会役員の皆様には心から感謝申し上げます。(総務課 高橋)



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会